新築賃貸マンションＡにおける
子育て世帯意識調査 結果報告書

2017 年 9 月

HITOTOWA INC.

１．アンケート調査概要

子育て世帯の核家族化や共働き世帯の増加、地域とのつながりの希薄化など、子育て環境が変化している。「子育てで孤立を感じる」という母親は 7 割、「産後うつ」は一般的なうつの 5 倍以上の発症率ともされ、子ども・子育て世帯への早期の支援の拡充が必要である。

子育て世帯を新築住宅の観点で見ていくと、居住者の多くがライフステージの変化とともに住み替えをしており、結婚・妊娠・出産・入園・入学など、家族の生活の変化に伴って新居に移り住んでいる。特に新築マンションでは、入居開始時に一斉入居することが多く、時間の経過とともに少しずつ育まれていくコミュニティがないままに、はじめての地域・はじめてのご近所づきあいの中で、子育てをする世帯が多いことが想定される。しかし、これまで子育て世帯と「住まい」にかかわる調査は、住み替え意識や居住環境の優先順位などの不動産の市場ニーズを把握するためのものが多く、子育て支援の取り組みに関するニーズや子育て世帯の意識はあまり把握されておらず、どのような取り組みがなされるべきか、また、その取り組みの意義は不明確なままとなっている。

そこで、HITOTOWA INC.では、現在「子育てのしやすさ」や「災害時の共助」に繋がるコミュニティ形成の支援を受託している川崎市内の新築賃貸マンションにおいて、子育て環境の把握と今後の支援活動の検討を行うため、入居後間もない子育て世帯への意識調査を実施した。同物件は、子育て応援マンションをコンセプトとし、主に子育てをしているファミリー層や DINKS が居住している（参考：総戸数/174 戸、間取り/1LDK～3LDK、住居専有面積/47.13 ㎡～66.75 ㎡、家賃・共益費/月額約 110,000～160,000 円）。

調査対象は、同物件に 2017 年 3 月以降に入居した子育て世帯とし、同年 6 月に開催した交流会に参加した父母 59 名から回答を得た（回収率 100%）。調査概要は、表 1 の通りである。アンケートの分析にあたっては、既存調査との比較を行っている（表 2）。サンプル数の少なさと、回答者がイベント参加者であるという偏りは留意が必要な点ではあるが、今後の新築住宅における子育て支援の取り組みに資するものと考え、自主的に行った調査結果をまとめた。子育て世帯が前向きに育児をできるようになり、それにより子どもたちが健やかに育つことができる社会を望む立場から、本調査が有効に利用されれば幸いである。

表１　アンケート調査概要

調査対象	川崎市内の新築賃貸マンション A（入居開始時期：2017 年 3 月中旬）に居住する子育て世帯の父母（妊娠期も含む）
調査方式	直接配布・集合調査
調査時点	2017 年 6 月
配布数	59 人
回収数	59 人
回収率	100%
実施主体	HITOTOWA INC.（調査協力：神奈川県住宅供給公社）

表２　比較調査概要

調査名/調査主体	調査時期	調査対象
第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書/ベネッセ教育総合研究所	2011 年 11 月	全国の第 1 子を妊娠中(後期)の妻・夫、 満 0～2 歳の第 1 子(ひとりっこ)を持つ妻・夫 今回調査との比較対象： 育児期妻：平均年齢 31.9 歳 育児期夫：平均年齢 33.8 歳 子ども(ひとりっこ)：満 0～2 歳
第 3 回川崎市地域福祉実態調査/川崎市	2013 年 1 月	川崎市在住の 20 歳以上の男女
子ども・子育て支援に関する調査報告書/川崎市	2013 年 9-10 月	川崎市民のうち、就学前の子ど゛も・就学子どもがいる保護者 今回調査との比較対象： 就学前子どもがいる保護者
荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民質問紙調査/東京都荒川区	2016 年 9-10 月	荒川区在住の満 18 歳以上の男女個人

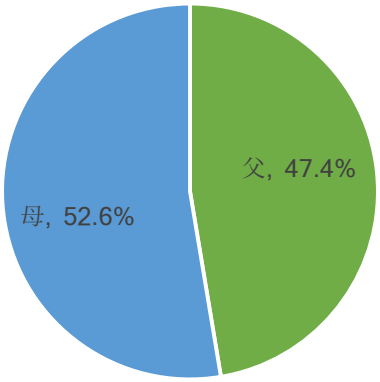
2．集計結果

1．回答者

「母」が 52.6%、「父」が 47.4%となっている。

図 1　回答者

(n=57)

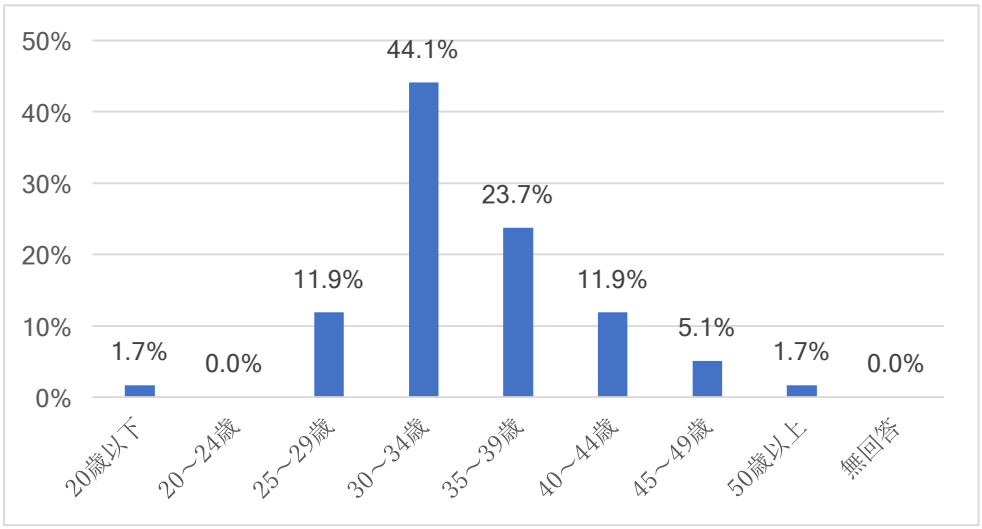


2．回答者の年齢

「30～34 歳」の割合が最も高く 44.1%となっている。次いで、「35~39 歳」が 23.7%となっている。

図 2　回答者の年齢

(n=59)

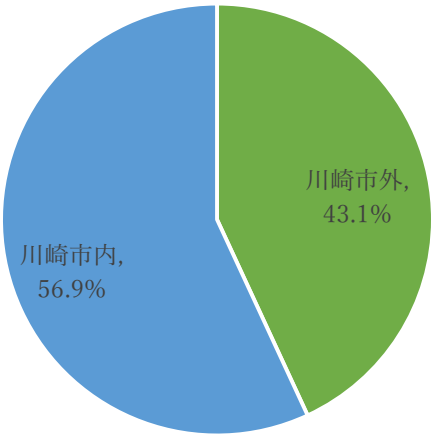


3．以前の居住地

「川崎市内」が 56.9%、「川崎市外」が 43.1%となっている。

図３　以前の居住地

(n=58)

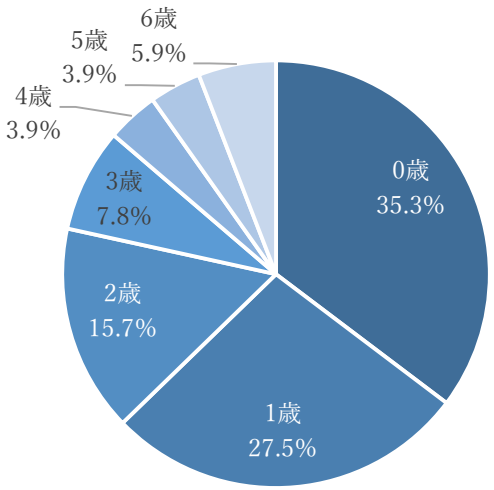


4．子どもの年齢（1 人目）

「0 歳」の割合が最も高くが 35.3%となっている。次いで、「1 歳（27.5%)」「2 歳（15.7%)」となっている。平均年齢は、1.53 歳だった。

図４　子どもの年齢

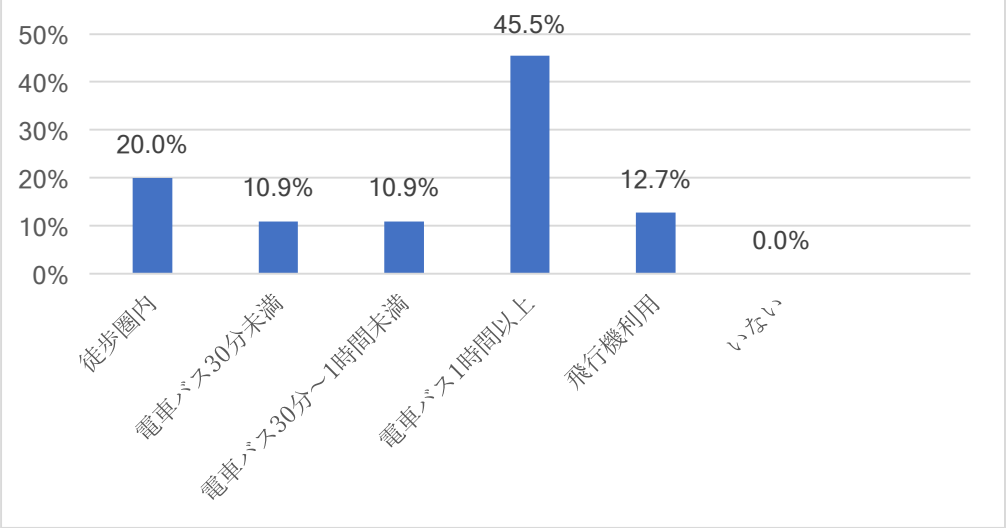
(n=51)



5．子育てで頼りにしているお子さんの祖父母の居住地

「電車バス 1 時間以上」の割合が最も高く 45.5%となっている。次いで、「徒歩圏内」が 20.0%となっている。

図５　頼りにしている祖父母の居住地　(n=55)

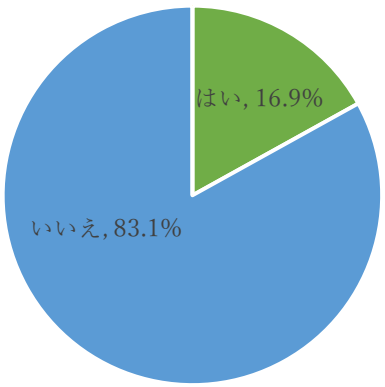


6．ご自身が育った市区町村で子育てをしているか

「いいえ」が 83.1%で割合が高く、「はい」が 16.9%となっている。

図６　ご自身が育った市区町村での子育てか

(n=59)



7．ふだんのご近所の方とのお付き合いの程度

「挨拶をする程度」の割合が最も高く 67.2%となっている。次いで、「ほとんどつきあいがない（17.2%)」「ときどき話をする（12.1%)」となっている。

「第 3 回川崎市地域福祉実態調査」と比較すると、今回調査の方が「挨拶をする程度」の割合が高く、「ときどき話をする」「親しく話をする」「家族のように付き合っている」の割合が低い。

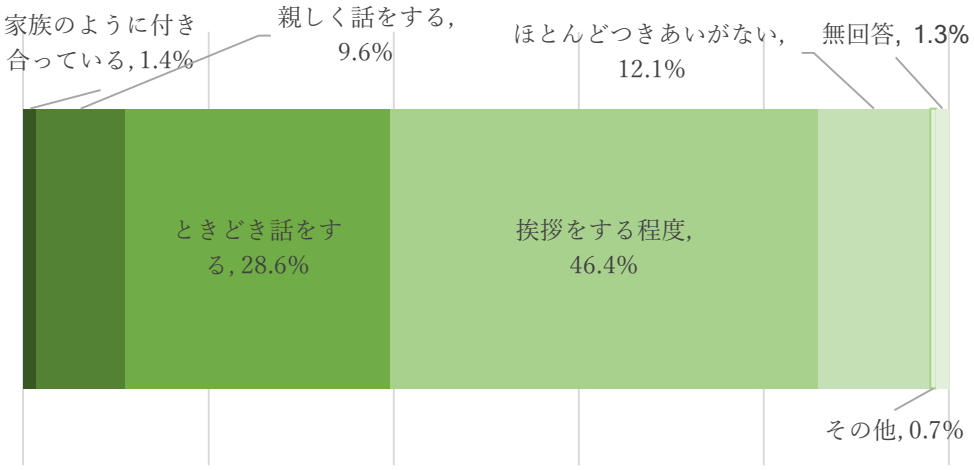
図 7　ご近所づきあいの程度

(n=58)



図 8　ご近所づきあいの程度

【川崎市「第 3 回川崎市地域福祉実態調査」(平成 25 年)】



８．子育てをする上で、気軽に相談できるひとや場所の有無

「いる/ある」が 68.4%、「いない/ない」が 31.6%となっている。

川崎市「子ども・子育て支援に関する調査報告書」の就学前子どもの保護者と比較すると、「いない/ない」の割合が約 5 倍となっている。

図 9　子育てを気軽に相談できるひと・場所

(n=57)

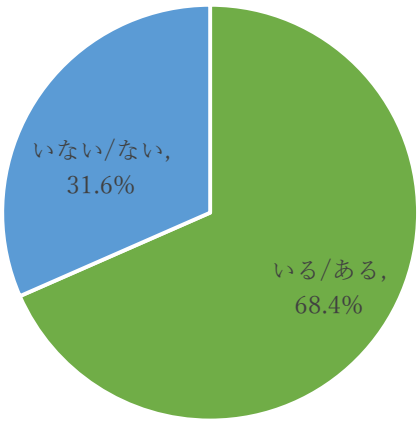
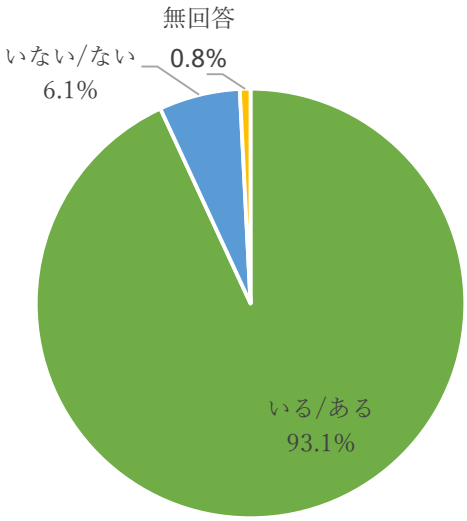


図 10　子育てを気軽に相談できるひと・場所

【川崎市「子ども・子育て支援に関する調査報告書」(平成 26 年)就学前子ども】



9．地域の中で子育てを通じたお付き合いの状況

9-(1)子どもを預けられる人

「ひとりもいない」の割合が最も高く 78.2%となっている。次いで、「1 人はいる（12.7%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査と比較すると、今回調査の方が「ひとりもいない」の割合が高い。

図 11 地域で子どもを預けられる人

(n=55)

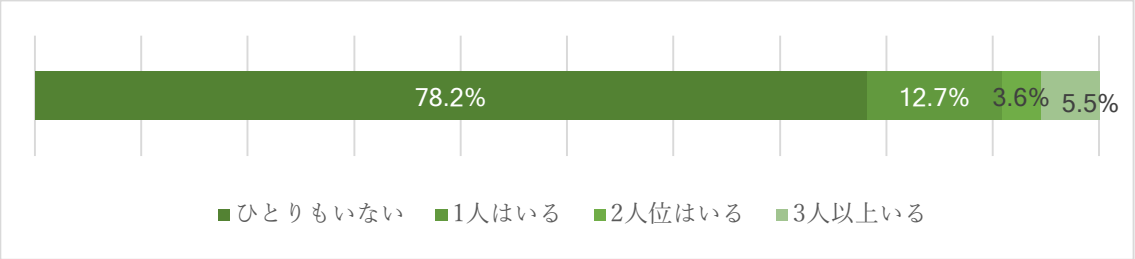


図 12　地域で子どもを預けられる人

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



9 -(2)子どもを気にかけてくれる人

「ひとりもいない」の割合が最も高く 58.2%となっている。次いで、「1 人はいる（20.0%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査と比較すると、今回調査の「ひとりもいない」の割合が約 2 倍となっている。

図 13　地域で子どもを気にかけてくれる人

(n=55)

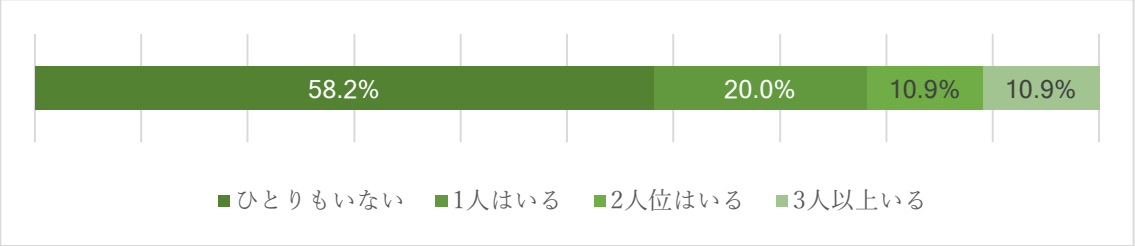
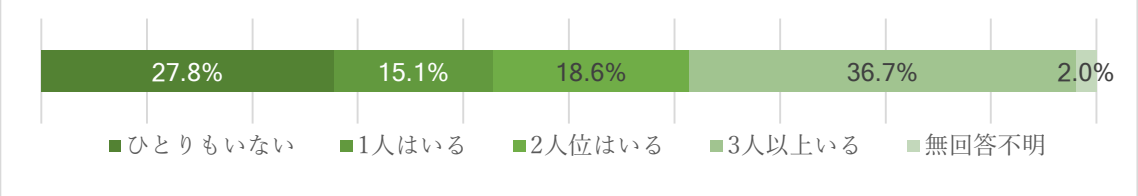


図 14　地域で子どもを気にかけてくれる人

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



9-(3)子育ての悩みを相談できる人

「ひとりもいない」の割合が最も高く 52.7%となっている。次いで、「1 人はいる（18.2%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査と比較すると、今回調査の方が「ひとりもいない」の割合が高くなっている。

図 15　地域で子育ての悩みを相談できる人

(n=55)

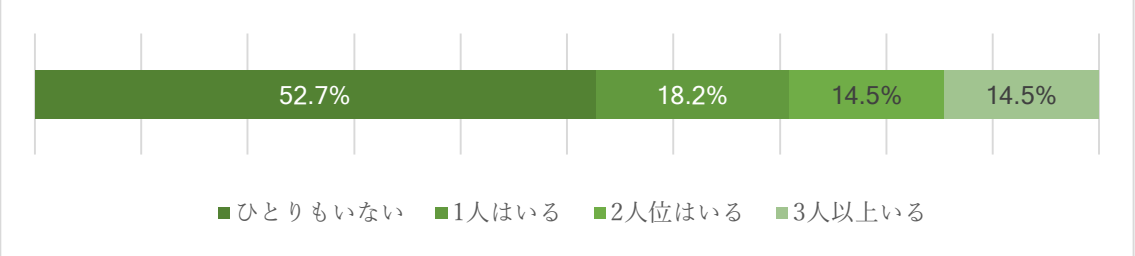
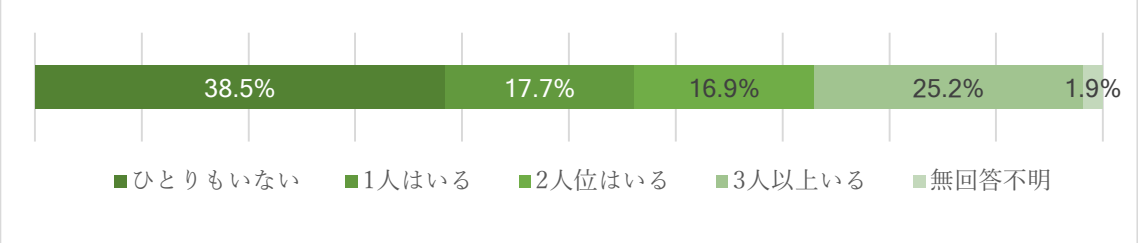


図 16　地域で子育ての悩みを相談できる人

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



9-(4) 子どもを遊ばせながら、立ち話する程度の人

「ひとりもいない」の割合が最も高く 57.4%となっている。次いで、「3 人以上いる（16.7%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査と比較すると、今回調査の方が「ひとりもいない」の割合が高くなっている。

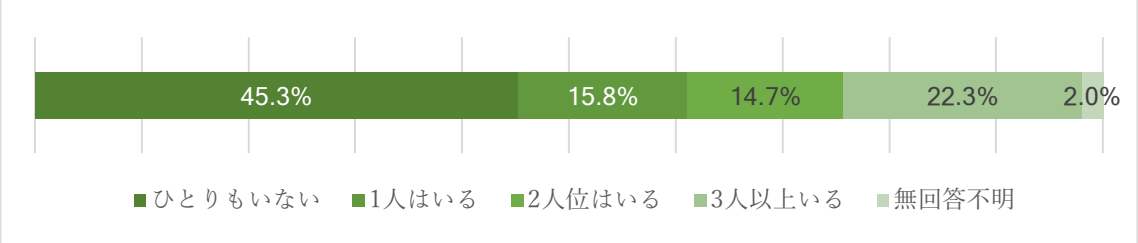
図 17　地域で子どもを遊ばせながら、立ち話をする程度の人

(n=54)



図 18　地域で子どもを遊ばせながら、立ち話をする程度の人

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



10. 地域で子育て家庭に対して理解し、協力しようとする雰囲気の有無

「わからない」の割合が最も高く 39.0%となっている。次いで、「どちらでもない【3】(32.2%)」となっている。

荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民質問紙調査との比較では、今回調査の方が「わからない」の割合が高くなっている。

図 19　地域で子育て家庭に対して理解し、協力しようとする雰囲気

(n=59)

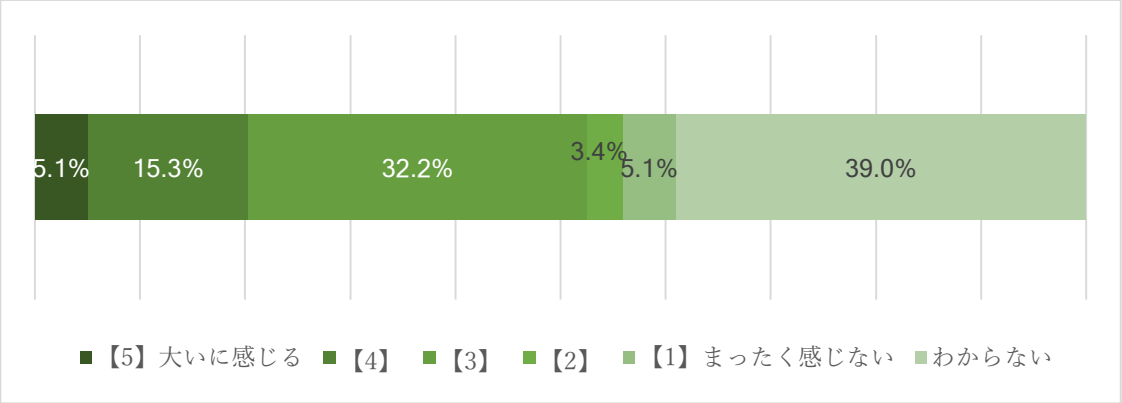
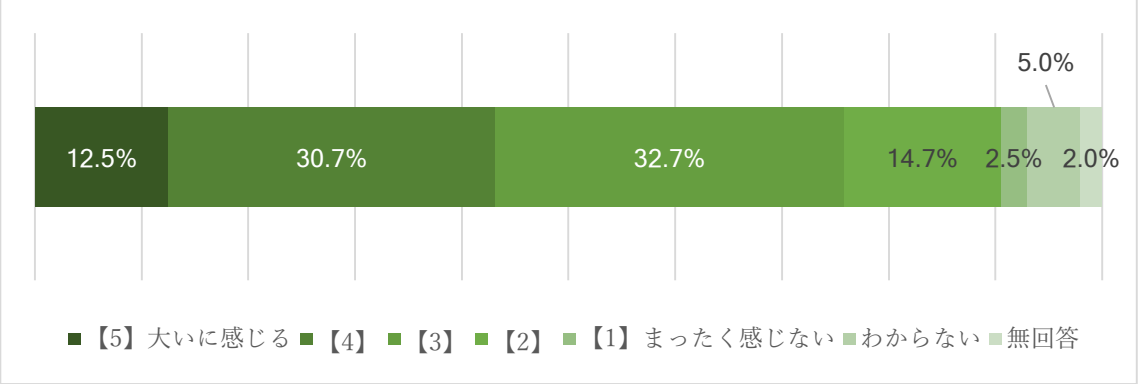


図 20　地域で子育て家庭に対して理解し、協力しようとする雰囲気の有無

【東京都荒川区(2016)「荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民質問紙調査」】



11. 災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じるかどうか

「わからない」の割合が最も高く 31.0%となっている。次いで、「どちらでもない【3】(29.3%)」となっている。

荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民質問紙調査との比較では、今回調査は「わからない」の割合が高くなっている。

図 21　災害時に近隣の人と助け合う関係

(n=58)

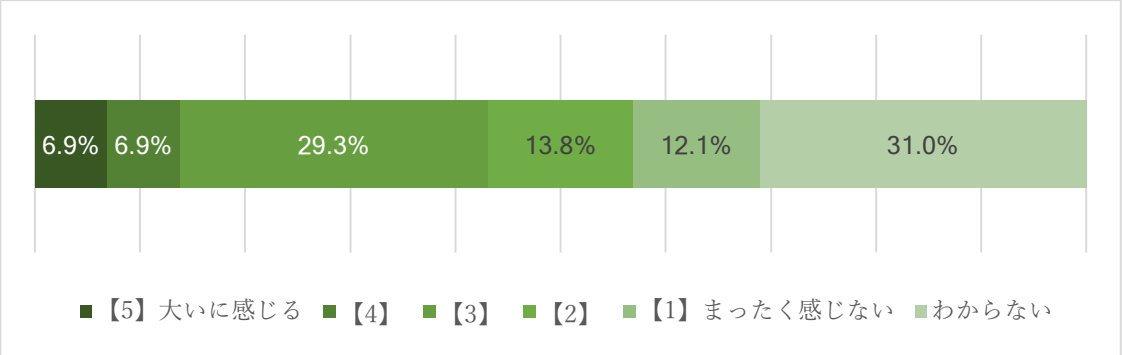
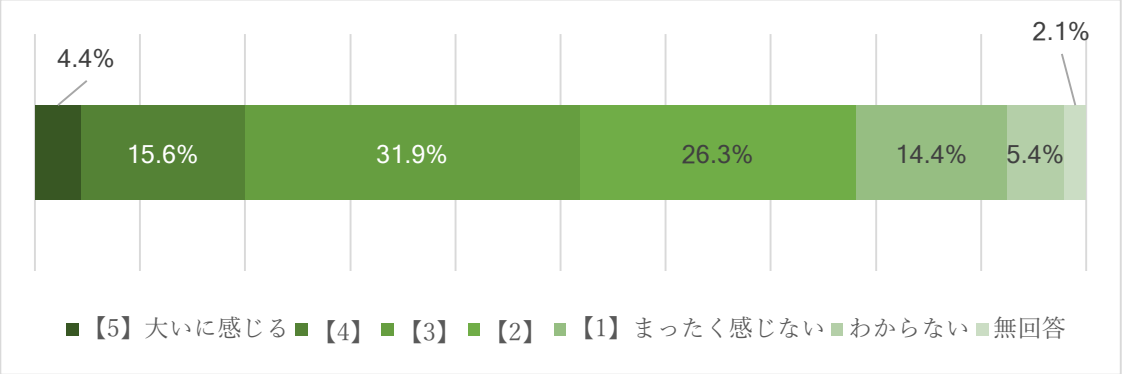


図 22　災害時に近隣の人と助け合う関係

【東京都荒川区(2016)「荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民質問紙調査」】



12. 子育てや家事などについてあてはまるもの

12-(1)子どもを育てることに充実感を味わっている

「あてはまる」の割合が最も高く 44.9%となっている。次いで、「ややあてはまる（26.5%)」、「どちらとも言えない（22.4%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査との比較では、今回調査の方が「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が低くなっている。

図 23　子育てに充実感を味わっている

(n=49)

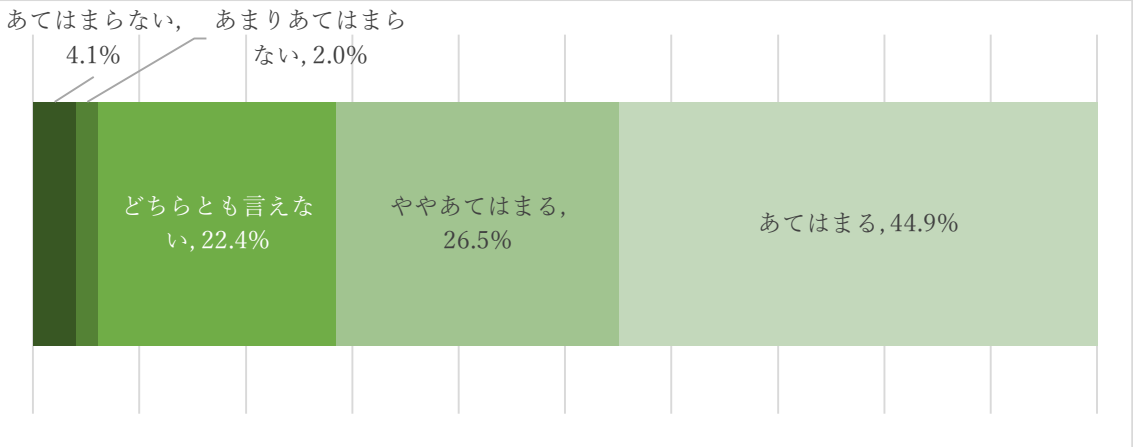
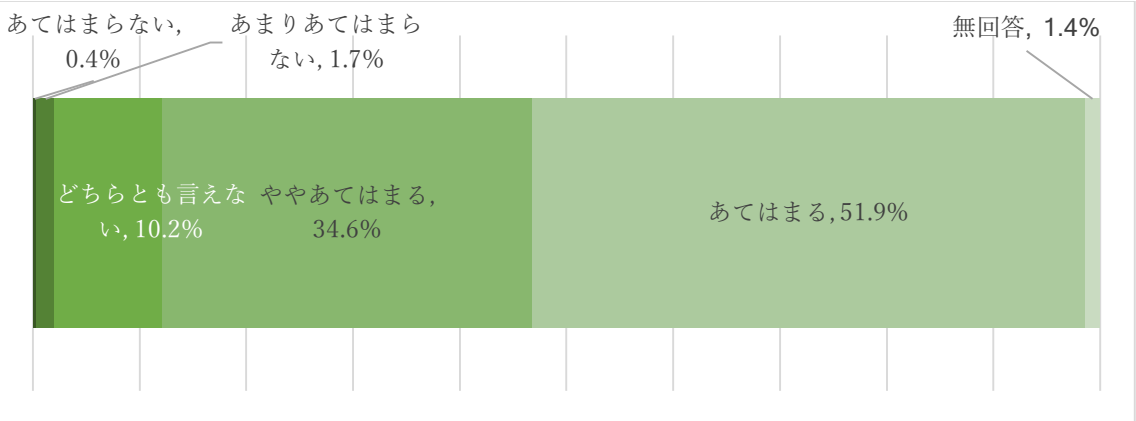


図 24　子育てに充実感を味わっている

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



12-(2)子育てに自信が持てるようになった

「どちらとも言えない」の割合が最も高く 51.1%となっている。次いで、「ややあてはまる（17.0%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査との比較では、今回調査と大きな違いは見られない。

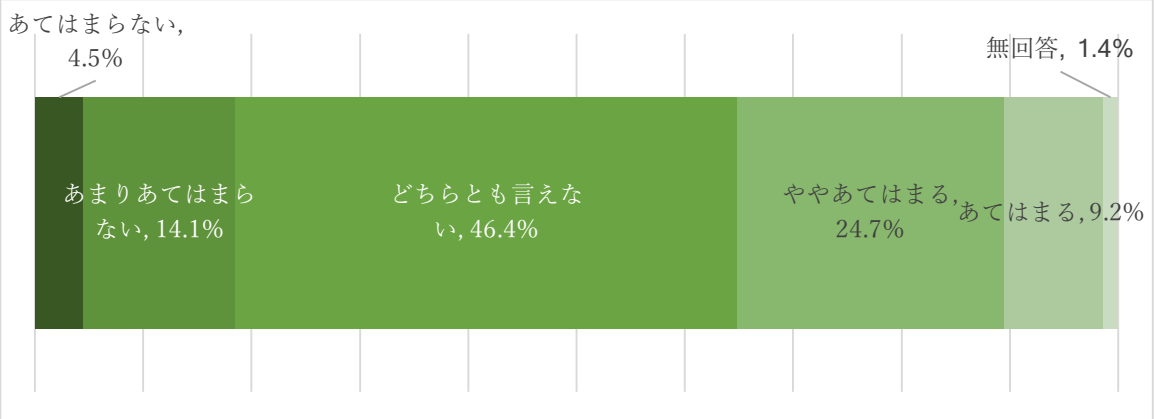
図 25　子育てに自信が持てるようになった

(n=47)



図 26　子育てに自信が持てるようになった

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



12-(3)子どもがうまく育っているか不安になる

「ややあてはまる」の割合が最も高く 44.9%となっている。次いで、「どちらとも言えない（20.4%)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査との比較では、今回調査の方が「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高くなっている。

図 27　子どもがうまく育っているか不安になる

(n=49)

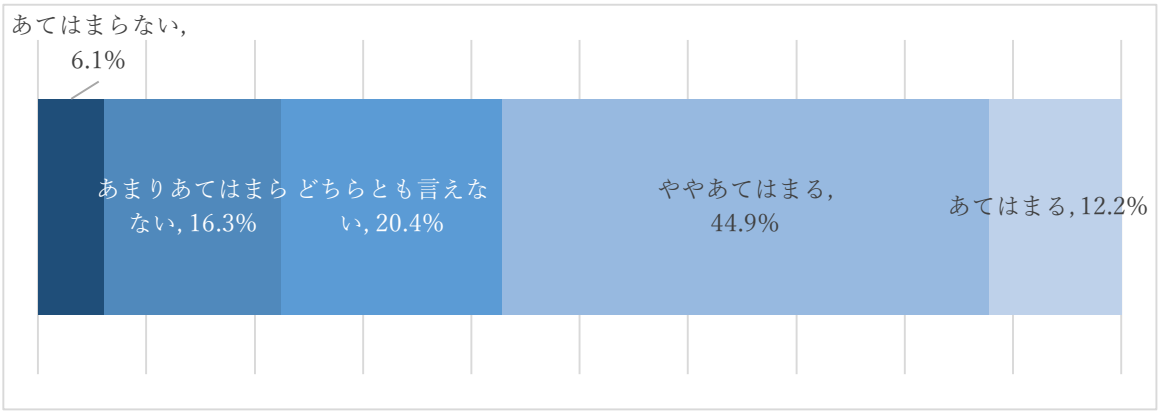
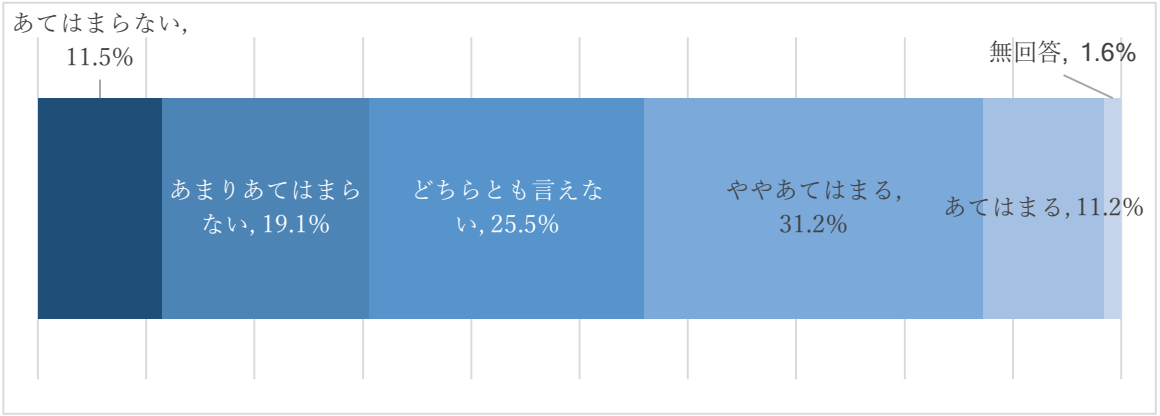


図 28　子どもがうまく育っているか不安になる

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



12-(4)子育てのためにいつも時間に追われていて苦しい

「どちらとも言えない」の割合が最も高く 40.4%となっている。次いで、「ややあてはまる（31.9 %)」となっている。

第 2 回妊娠出産子育て基本調査との比較では、今回調査の方が「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高くなっている。

図 29　子育てのためにいつも時間に追われていて苦しい

(n=47)

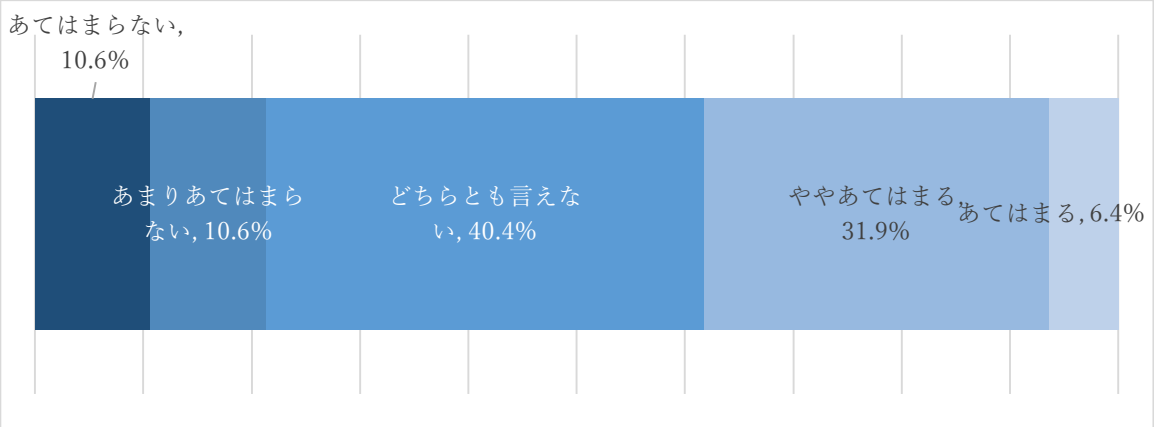
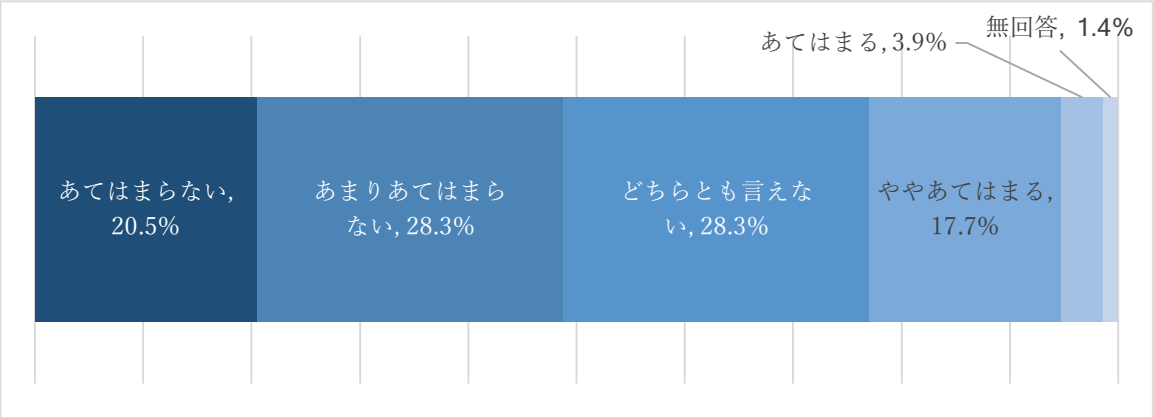


図 30　子育てのためにいつも時間に追われていて苦しい

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】



12-(5)私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助けあっている「ややあてはまる」の割合が最も高く 39.6%となっている。次いで、「あてはまる（35.5%)」となっている。
第 2 回妊娠出産子育て基本調査との比較では、今回調査の方が「あてはまる」「ややあてはまる」の割合がやや高くなっている。

図 31　私と配偶者は、子育てや家事などの分担を助けあっている

(n=48)

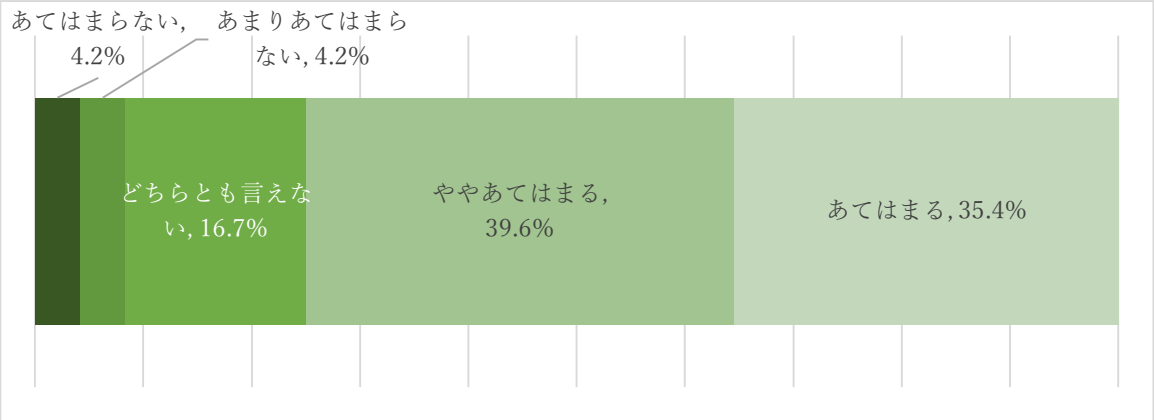
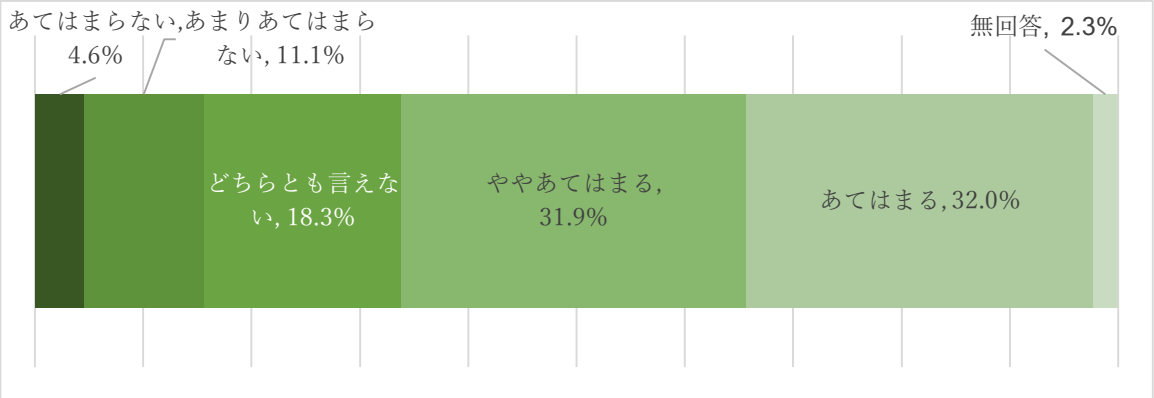


図 32　私と配偶者は、子育てや家事などの分担を助けあっている

【ベネッセ教育総合研究所（2011）第 2 回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書】

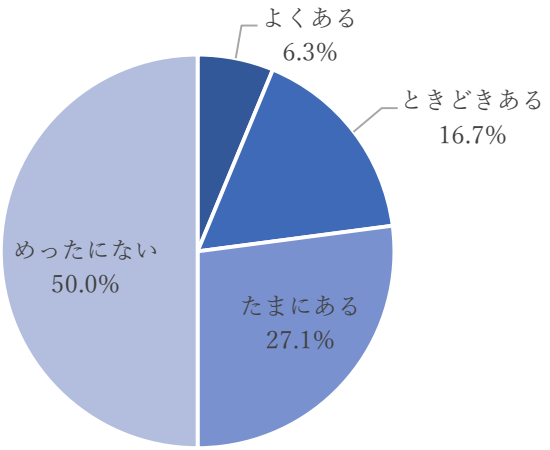


13. 子育てをしていて孤独を感じることがある

「めったにない」の割合が最も高く 50.0%となっている。次いで、「たまにある（27.1%）」「ときどきある（16.7%）」となっている。

図 33　子育てをしていて孤独を感じることがある

（n=48）

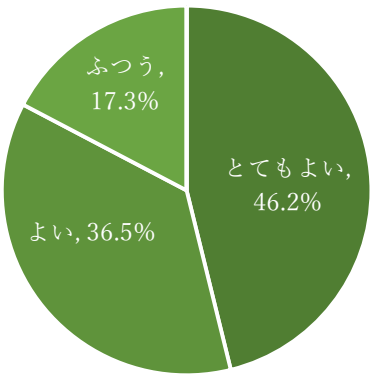


14. 本物件での子育てや防災減災に関する取り組み

「とてもよい」の割合が最も高く 46.2%となっている。次いで、「よい（36.5%）」「ふつう（17.3%）」となっている。「あまりよくない」「よくない」は 0%であった。

図 34　本物件で子育てや防災減災に関する取り組み

（n=52）

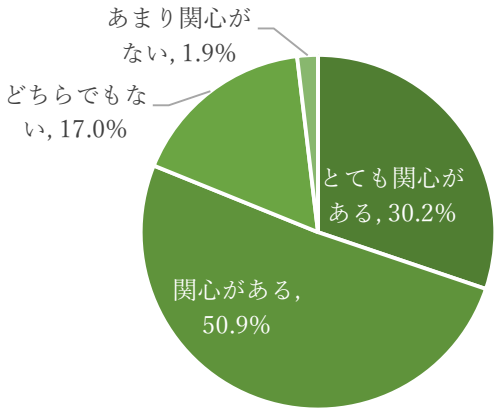


15. 本物件での子育ての活動への関心

「関心がある」の割合が最も高く 50.9%となっている。「とても関心がある（30.2%）」「関心がある（50.9%）」の合計は 81.1%となっている。「関心がない」は 0%であった。

図 35　本物件で子育て支援の活動への関心

（n=53）

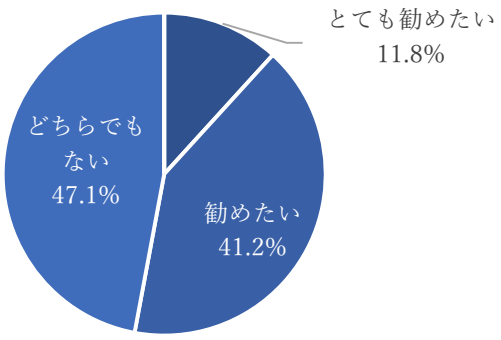


16. 本物件を友人やお知り合いに勧めたいかどうか

「どちらでもない」の割合が最も高く 47.1%となっている。「とても勧めたい（11.8%）「勧めたい（41.2%）」の合計は 53.0%となっている。「勧めたくない」「あまり勧めたくない」は 0%であった。

図 36　本物件を友人やお知り合いに勧めたいかどうか

（n=51）



３．結果

居住者の４割は川崎市以外から移り住んできており、多くが自身の育った地域ではない場所で子育てをしている。気軽に相談できる人や場所が「いない/ない」と回答した割合が川崎市内の平均より５倍高い。

以前の居住地は 4 割が川崎市以外であり、8 割はご自身が育った地域ではない場所で子育てをしている。子育てで頼りにしている祖父母の居住地は 5 割が「電車バス 1 時間以上」と回答しており、多くが気軽に祖父母の助けを得られる距離にない場所に住んでいる。子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所が「いない/ない」との回答は３割に上り、同市内の平均より５倍高い結果だった。

ご近所づきあいは挨拶をする程度が 7 割、地域で子どもを預けたり、悩みを相談したりする相手はひとりもいないと回答したひとが最も多く、全国調査より軒並み高い。

ご近所づきあいは「挨拶をする程度」が７割を占め、「地域で子どもを預けられる人」「地域で子どもを気にかけてくれる人」「地域で子育ての悩みを相談できる人」「子どもを遊ばせながら、立ち話する程度の人」等は、「ひとりもいない」と回答したひとが最も多く、全国調査より軒並み高くなっている。

子育ての充実感は低く、子育ての不安感や負担感は高い傾向にあるが、配偶者との助け合いは全国調査よりよい。

全国調査に比べて、「子育てに充実感を感じている」と回答した割合は低く、「子どもがうまく育っているか不安になる」「子育てのために時間に追われていて苦しい」と回答した割合は高い。一方で、「配偶者との子育てや家事などの助け合い」は全国調査よりややよい結果だった。「子どもを遊ばせながら、立ち話する程度の人」の割合は大きな違いは見られなかった。

４.考察・まとめ

当該新築マンションに居住する子育て世帯の多くは、これまでの自身の生活と馴染みの薄い場所で子育てをしており、子どもの祖父母の協力も気軽に得られる環境ではない家庭が半数以上を占めていた。子育て世帯の多くは、親族などによる協力が得にくい状況であることに加えて、近所の人や地域資源といった家庭外からの手助けやつながりが薄い環境に置かれていることが示唆される。地域で子育ての悩みを相談したり、子どもを預けられたりするひとが「ひとりもいない」という回答が最も多かったことは、家庭以外の身近なひととの関係性が希薄な環境のなかで子育てをしている家庭が多いと考えられる。保護者の子育てへの不安感や負担感の大きさは、そうした支え合いの少ない子育て環境に起因しているものと推察される。

本調査は、特定の新築賃貸マンションを対象に、子育て環境の把握と今後の取り組み内容の検討のために行った調査であり、これを集合住宅の全体的な特徴として述べることは困難である。しかしながら、これまで実感値として現場で感じていた新築の集合住宅特有の課題が、データをもとに裏付けられた結果となった。結婚や出産・子どもの入園・入学などライフステージの変化とともに、新しい住まいに移ることは、物質的にはよい暮らしが得られる一方で、これまでの地域のひととの付き合いや地域の資源とのつながりが途切れることにもなる。また、30～40 代の働き盛りの世代は、仕事や趣味趣向が合う仲間との関係性が強く、地域のつながりは薄い生活を送っている傾向にある。そのため、特にその世代が多く住む新築の集合住宅では、居住者間のコミュニティがつくられていくには一定の時間がかかることが想定され、そうした関係性は自ら積極的につくりに行くか、きっかけがない限り、新たに構築することは難しいのが実情である。全国的な傾向として、妻と夫どちらも「2006 年に比べて 2011 年のほうが、地域での子どもを通じたつきあいがないと答えている人が多い」（ベネッセ, 2011）という結果もあり、地域との関係性の希薄さは現在の子育て世帯の全体的な特徴と捉えられるが、新築の集合住宅の場合はその傾向がさらに顕著になっていることが推測される。

子育ての充実感を高め、負担感を軽減するためには、身近な地域や近所で頼ることができる存在が必要である。様々な地域から一斉に入居することの多い新築の集合住宅では、住民による自発的な交流が生まれるには一定程度の期間を

要するため、入居前後からの入居者や地域のひととの交流、地域資源とつながる仕組みづくりには意義があるものと考えられる。エリアや入居者属性に限らず、地域や近所などの身近な場所でのインフォーマルな支え合いや交流は、公の支援では担いきれない部分であるものの、子どもの健やかな育ちや保護者の前向きな子育てに資するものとして重要なものであろう。

これらの分析を踏まえて、本物件では、下記の４点を今後の取り組みの重点方針と位置付け、子育て支援の取り組みを実施することとした。

１．子育て世帯同士やご近所付き合いが促されるような交流の場の創出

ウェルカムパーティや子育て世帯交流会、座談会、季節イベント等の開催

２．子育てに関する講座・情報交換の機会の提供と子育て関連情報の提供

育児講座･情報交換の機会の提供、その他の自治会や行政による地域イベントや子育て支援・里親制度等の取組みに関する情報提供

３．保育園や子育て支援拠点等の地域資源や専門職とのつながりづくり

保育園や地域拠点等と連携・協働した取り組みの実施

４．住民主体の子育てコミュニティの伴走支援

子育てコミュニティへの意識啓発、運営メンバーへのアドバイスと活動の後押し

一定期間の取り組みの実施後に、参加者を対象にした調査を行い、活動の振り返りと評価を行う予定である。